



研究・研修報告書

2024年 10月 30日

小牧市議会議長 様

| | |
|-------|-----|
| 会派名 | 無会派 |
| 代表者氏名 | 黒木明 |

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

黒木明

2 日程

2024年 10月 17日（木）～10月 18日（金） 1泊2日

3 研究・研修名

「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」

4 主催者

全国市長会

5 会場

兵庫県姫路市（アクリエひめじ）

6 受講の目的

小牧市民の健康づくりとより良い生活環境のまちにする為、他の市区町村の有益な見地を得て、小牧市の発展に寄与する情報を得て、より良い市政へ役立てる事を目的とする。

7 主な内容

基調講演 生命を捉えなおす

生物学者・青山学院大学教授 福岡伸一

主報告

市民の「LIFE」を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長 清元秀泰

一般報告

生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系教授 谷口守

都市そのものを健康にするまちづくり

千葉県流山市長 伊崎義治

IT/AIの健康分野への適用例

兵庫県立大学副学長 畑豊

パネルディスカッション

「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」

コーディネーター 中央大学法学部教授 宮本太郎

パネリスト

高岡病院児童精神科医 三木崇弘

NPO 法人日本栄養パトネット理事長 奥村圭子

長野県茅野市長 今井敦

大阪府泉大津市長 南出賢一

8 所感・提言・課題等

「基調講演 主報告 一般報告」

所感

基調講演 「生命を捉えなおす」では生物学者 青山学院大学教授 福岡伸一氏による GP2 マウスを例にした生物の対応性を、都市を生物に例えての可能性の講話で、遺伝子操作一部欠損したマウス（GP2 マウス）の異常を観測する過程で、欠損があってもほかの遺伝子が欠損個所を補う働き正常にマウスが生存することを、都市に問題があっても、その問題を互いに補い合い問題を解決していくシステムを都市レベルで構築し、環境に対応していく可能性を感じた。

主報告「市民の「LIFE」を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり」では、姫路駅を降りてすぐに突き抜けて見える姫路城の全体の街づくりとして、市民に運動の一環として負担を感じないで、歩いて健康づくりに繋がる町のレイアウトとして、2021年に姫路市ウォークアブル推進計画」を策定し「居心地がよく歩きたくなるまちなか」を形成し、実際に現地で姫路市内を歩いても、大通りからは常に姫路城が見え、歩くことに負担を感じないレイアウトで、現状の小牧駅から小牧山城までの街づくりの参考になると感じた。

一般報告の中では「都市そのものを健康にするまちづくり」で森林等による緑影によるヒートアイランド対策、山林、森からの冷気を利用して温暖化と環境、景観価値を高めるグリーンチェーン制度と認定制度の講話で市街地の緑化について認識が深まり、小牧市は現状緑豊かな土地が多いですが、現在、野山を削りソーラーパネル設置で住民とのトラブルが発生している地域も少なくない。

小牧市も緑を守るためにも住民トラブルを未然に防ぐためにも、一部都市が行っている市独自の条例制定も必要と感じた。

パネルディスカッション

「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」では、「社会インフラの健康が実現する町の健康」の項目で、定時バスがあったが、利用者が少なくなり、乗り継ぎ等の使い勝手が良くないとの声もあり、新しい時代に対応した AI 乗り合いオンデマンド交通を導入したところ、改善点はあるものの、評判もまずまずで着実に進化しているとの報告があり、これは現在 3 億の負担金を出している小牧市のバスの運用の改善策にもつながると感じ、小牧市でも特に市内中心部から離れた地域では、AI 乗り合いオンデマンド交通を導入の検討の余地があると感じ長野県茅野市の運用例を参考に小牧市も積極的に導入検討の余地があると感じた。

「未病予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」では、大阪府泉大津市の取り組みで、小中学校給食に有機米特別栽培米を栄養価の高い金芽米加工して提供、塩は自然塩を利用し、マーガリン、ショートニングを使用したものは提供しないなど子どもの給食に配慮した食育に力を入れていた。小牧市では給食無化の声が多いですが、給食にはコストをかけてでも学生には良質な給食を提供して頂きたい。

新型コロナウイルス後遺症や新型コロナワクチン接種後の副反応に苦しんでいる方へのサポートプログラムも実施しており、新型コロナワクチン接種後の副反応健康被害のサポート体制も整っており、「健康被害の泣き寝入りを作らない」の強い思いで取り組んでいると話もあり、健康被害救済については小牧市でも今まで以上に取り組む必要があると感じた。